

議会運営委員会 行政視察報告書

1 日程

令和5年10月23日（月）～24日（火）

2 視察先及び視察項目

	視察先	視察項目
1	岐阜県可児市議会	議会改革・議会ICT化について
2	滋賀県大津市議会	大津市議会広報広聴ビジョンについて

3 視察委員

- 委員長 高山 雄一 自由民主党大田区議団・無所属の会
- 副委員長 岡元 由美 大田区議会公明党
- 委員 しおの目まさき 自由民主党大田区議団・無所属の会
- 湯本 良太郎 自由民主党大田区議団・無所属の会
- えびさわ圭 介 自由民主党大田区議団・無所属の会
- 天坂 大介 自由民主党大田区議団・無所属の会
- 小峰 よしえ 大田区議会公明党
- 田島 和雄 大田区議会公明党
- 佐藤 伸 日本共産党大田区議団
- 三沢 清太郎 日本維新の会大田区議団
- 犬伏 秀一 つばさ大田区議団
- おぎの 稔 東京政策フォーラム（都民ファースト・国民民主・無所属の会）
- 庄嶋 孝広 立憲民主党大田区議団

4 視察報告

項目ごとに各会派の視察報告を記載。

(1) 岐阜県可児市議会

◆視察項目

議会改革・議会ICT化について

(自由民主党大田区議団・無所属の会)

岐阜県可児市議会における議会改革に関する取り組みについて、視察に伺った。当市議会では議会改革のための調査として、全議員が政務調査費を支出して、平成23年に市民アンケートを実施。対象は20歳以上の市民2,000人であり、質問選定から封入、郵送、集計、分析に至るまでを全て議員によって行った。回収率は約40パーセントであったが、特に注視すべき点として、64.2%と多くの市民が「議員の活動内容を知らない」と、そして僅か6.4%の市民が「市民の声が市議会に反映されていると感じている」と回答した。



そこで当市議会は「議会の見える化」を推進することによって、更なる情報公開の徹底や、議会だよりを軸としたわかりやすい広報の展開、市民の意見を聴く意見交換会の充実など、様々な議会改革に取り組むこととなる。議場における代表質問や一般質問の形式を希望によりフレキシブルに変更可能としたり、自由討議を重視するなどの改革や、広報機能強化要素としての議会のトビラ（広報紙）、議会報告会、FMラジオ放送、CATV番組制作などの活用も取り入れた。更には広聴機能強化として、常任委員会と市民との懇談会、子育て支援としてのママさん議会、加えて高校生議会と称して様々な政策課題について討議してもらうなどの取り組みも繰り返し実施された。高校生議会選挙と称した取り組みは、投票率が90%を超えるなどの結果を得るなど、多世代に対する議会への関心向上の取り組みは実を得るものであったと考える。そしてその過程を経たのちの、令和3年時のアンケート調査では、「市議会に関心がない」と回答した市民は、実に14.4%に減少し、可児市議会の総合的な取り組みの成果が示されたといえる。

その他の微細にわたる案件も含め、大田区議会における諸事項の改善に資する多岐にわたる示唆を得たものと捉え、検討材料として非常に参考となる内容であった。

(大田区議会公明党)

可児市の議会改革について、川上文浩議員よりご説明を頂いた。

2011年にアンケート調査を実施。議員の活動内容を知らないが64.2%。市民の声が市議会に反映されているが6.4%だった。2016年のアンケートでは、議会への関心が

ないが、36.7%から10.1%と大きく減少。この間、市民への議会報告会や高校生議会の開催、市議会だよりの刷新、本会議や委員会のネット配信など様々な取り組みを行った。

代表質問は会派代表ではなく、一般質問で出た良い政策を選んで、常任委員会として全会一致で委員長が行う。一般質問では実現不可能なことが、代表質問だとほぼ100%回答で実現。4日間重要事業の説明を受けた後に質問項目を出し、反問されて答えられない質問や確認すれば済む質問は取り消し、350問のうち200問取り消したことも。極端ではあるが、長年積み上げて



きた議論が、期が変わるたびに振り出しに戻っている大田区の現状に忸怩たる思いなので、考え方には共感する。ある質問では、国の法律を上回る条例は作れないとの答弁だったが、経産省に確認したら、国が制度を変えて可児市に合わせることになり、最終日に質問をやり直し。市は経産省の出先機関に確認し、議員は経産省に直接聞いた。その後は市も慎重に良く調べるようになった。

議長は選挙の前月に4年間のミッションを全て決めて議運で決定し、次の議会に申し送る。誰が議長になってもすぐにマニフェストを作ってスタートできる体制が確立されると共に、議長は毎年マニフェストと議会課題を次の議長に引き継いでいる。

高校生への主権者教育や議選監査委員の役割等、多岐にわたる内容で、非常に刺激的だったが、議会改革を中心的に進めてきた方が落選したり、今年の市議選の投票率が37.57%、前回より17.77ポイント下がったことを鑑みると、市民の思いと議会改革は必ずしも一致するものではないことは残念だ。

(日本共産党大田区議団)

岐阜県・可児市議会が2011年に実施した、議会改革のための市民アンケート(回収数810件、回収率40.6%)では、市議会に関心がない36.7%に加え、議員の活動内容を知らない64.2%、市民の声が市議会に反映されていると感じている6.4%と衝撃的な結果となり、このことが議会改革を進める契機になったとのことです。



以来、高校生議会の開催、地域課題懇談会の開催、可児高校模擬選挙、ママさん議会の開催、正副議長の立候補所信表明を議場で行う、子育て世代との意見交換会など、様々な取組を行っ

てきました。特に、「議会の見える化」の推進のために「議会だよりの」を軸としたわかりやすい広報に努め、市民の意見を聴く意見交換会の充実などの取組は重要で参考になりました。また、報告の中で市民からの意見表明と言える請願・陳情の件数が少

なく、件数を増やし市議会に関心を持ってもらえるよう腐心していることが出されましたが、この点で大田区議会は東京 23 区の区議会でトップクラスの陳情件数で、区議会の論戦などを通じて区民に一定の関心が持たれていると感じました。が、更に区民意識と区議会の隔たりの解消に向けた議会改革の必要性も感じました。

(日本維新の会大田区議団)

可児市議会では5年に一度の市民アンケートを取っているそうですが、非常に多くの市民が議会は知らない、議会は市民の声を反映していない、という厳しい評価を受けてしまった事を受け、当時の若手議員を中心に議会改革が始まったそうです。様々な取組がなされた中で画期的だったのが会派代表質問をやめ、代わりに委員会代表質問を取り入れたところでした。会派代表質問は地方自治法に何の規定もないため質問しても理事者答弁がはぐらかせれてしまう事があるが、委員会代表質問だと地方自治法に規定があるため理事者は賛否を解答する義務が生じ、取り上げた質問は必ず何かしらの答えをもらえるそうです。

また、理事者側の間違った答弁をそのまま議事録に残させることも目を引きました。大田区では議員側も理事者側も誤った質疑をした場合は発言訂正が行われることがままあり、訂正が認められた場合は議事録に間違った質疑は残りません。間違った質疑をそのまま残すことは発言に一層の責任を伴わせるものであり大いに参考になりました。

マスコミの有効活用も斬新でした。議会改革状況をマスコミにオープンにすることでマスコミは付度なく記事にし、有権者に良い点も悪い点も議会の日頃の努力を知ってもらえる機会になり、ひいては有権者に近い議会になっていると感じました。

総じてICT改革というよりは議会改革の話が中心でしたが、可児市議会の本気で議会を変えていこうとする意気込みをヒシヒシと感じる視察となりました。

(つばさ大田区議団)

可児市議会では、平成 23 年 2 月に実施した市民 2,000 人を対象にした議会改革のためのアンケート調査などで関心が高かった、議員の定数や報酬、そして常任委員会のあり方について議会内部でプロジェクトチームを作り、平成 25 年 8 月末から約 11 か月かけて調査研究を行い、議会運営委員会に答申をした。

その結果を踏まえて、議会活性化特別委員会を平成 26 年 9 月に設置し、会議には名城大学都市情報学部の昇秀樹教授を専門的知見としてお招きし、様々なアドバイスをいただいた。そして、特別委員会で調査研究した内容を基に、議会報告会で定数・報酬を含めた議会・議員の活動について報告を行い、調査研究内容および意見を集約し、報告書にまとめ、平成 27 年 6 月に本会議にて委員長から報告を行い議会改革をすすめた。(参考市議会HP)

その結果、執行部に対して委員会代表質問という質問を作り、その質問内容の実現を図ることができた。

実際に我々の説明にあたって頂いた、元議長さんは熱く、熱く、議会改革を語られた。何かを変えようとするときは、強いリーダーシップを持った船頭役が必要と痛感

した。残念だったのは、ICT化調査・研究会との合同視察でありながら、議会改革の独演会で終わったことだ。

(東京政策フォーラム (都民ファースト・国民民主・無所属の会))

改選前の一月にも視察に伺った岐阜県可児市に再び、視察に伺った。

説明員の方はかなり熱意をもって取り組んでいるようで議会のあり方、質問調整、広報などすべてを一から変えてしまおうというほどの熱意を感じた。質問通告を見て、その議員に質問を取り下げさせたり、反問権を行使した行政サイドの質問に当該議員が答えられない場合、質問を打ち切るといったかなり過激な対応ではあったと思う。一方で可児市議会の危機意識として、住民から見られていない、住民不在の議会になっていることがあった。

そういった問題意識の共有、課題の認識のためには議会も今のままではなく、変わっていかなければならない。住民にどのように議会に関心を持っていただき、住民とともにある議会となるかは、他の議会も今まで取り組んできた課題であり、我々も簡単に答えを出せるわけではないが、議会運営委員会とは別に議会の改革のためのPTなども立ち上げ、取り組んでいくべきだろう。



(立憲民主党大田区議団)

可児市の人口は約 10 万人、議員定数は 22 名。可児市議会は、平成 24 (2012) 年 12 月に議会基本条例を制定するなど、議会改革に取り組んできました。その議会改革を主導してきた、元議長で、現在は監査委員でもある、川上文浩議員からお話を伺いました。

川上議長時代の平成 23 (2011) 年 2 月に議会改革のための市民アンケートを行ったところ、「議員の活動内容を知らない」64%、「市民の声が市議会に反映されていると感じている」6%という厳しい状況に直面。今後取り組むべき課題として最多 (45%) の「市民の意見を聴く意見交換会の充実」など、「議会の見える化」を推進してきました。

平成 16 (2004) 年から毎年実施している子ども議会 (小学生) に加え、中学生議会、高校生議会、ママさん議会。高校生や子育て世代との意見交換会など、ワークショップの手法を取り入れた話し合い。高校での模擬選挙など主権者教育にも取り組んでいま



す。

また、議会自体の運営も、正副議長は立候補制であり、立候補演説と質疑も行われ、ケーブルテレビで公開されています。私たちが学校で教わった、一般的にイメージされる民主主義であり、大田区議会で2期目を迎えた私にとって、こういう当たり前のことができるのだと目から鱗が落ちました。

ただ、これだけの改革を行っても、議会改革のための市民アンケートの結果における議会への関心度は、「関心がある」「少し関心がある」の合計で、平成23(2011)年調査で61%⇒平成28(2016)年調査で49%⇒令和3(2021)年調査で40%と減少傾向にあり、難しさもあるようです。

なお、最も印象に残ったのは、議場にモニターがあり、一般質問の際に使用できること。大田区議会の予算・決算特別委員会で、タブレット配信資料を多用する私としては、傍聴者も見たいとの声があり、大田区議会でも導入を図りたいとの思いを強くしました。

(2) 滋賀県大津市議会

◆視察項目

大津市議会広報広聴ビジョンについて

(自由民主党大田区議団・無所属の会)

大津市議会における議会改革としての「広報広聴ビジョンとアクションプラン」について、その取り組みの内容を伺った。当市議会が平成30年度に実施した、議会活動にかかる外部有識者からの評価のうち、広報広聴活動の項目において、議会だよりに関して検証を要するとの評価があり、次期議会への申し送り事項においてもこの外部有識者から得た意見を参考にすることが望ましいとの結論がなされた。こ



れらを踏まえ、2019年に、議会における実行計画であるミッションロードマップにおいて、「広報のあり方検証」が実行テーマとして選定された。これは議会全体で、政策立案と議会改革を推進するために、令和元年度から同4年度までの任期中に取り組むべき事項と工程を設定し、市民に公表した上で取り組んだ、議会版実行計画である。まずは現状把握のために13歳以上の無作為で選出した市民3,000人に対してアンケート調査を実施し、広報戦略の専門家による議員研修会を実施したほか、アドバイザーも起用した。アンケート結果に基づく課題認識や議会広報の意義と役割を踏まえて設けたビジョンの具現化を図るという工程を経た。具体的には、例えば市議会だよりのリニューアルで読者アンケートや高校生の意見を掲載するなど既存コンテンツの見直しを図り、双方向コミュニケーションを目的としたコンテンツを創設するなどした。また市議会のロゴマークの作成、関心惹起に向けた広報動画の作成、ホームペー

ジのリニューアル、若者や各種団体との意見交換会の開催など、多岐にわたる具体的な改革を実現した。大田区においても議会だよりの改善をはじめとする議会の広報広聴の向上についての取り組みはなされているが、大津市議会の戦略的な取り組みとその具体的な成果は目を見張るものがあり、自治体規模は違えど、様々に取り入れられる要素もあると判断できることから、検討材料として大変示唆に富む内容であったと考える。

(大田区議会公明党)

大津市議会は「議会活動を市民と共有すること」を広報広聴の役目とし、「伝える広報」から「伝わる広報」をコンセプトに、取り組みをされています。

具体的には「市議会への関心惹起」「効果的な広報媒体の活用」「市民参画につながる広聴機会の充実」を課題に、5年間に渡る広報広聴ビジョン・アクションプランを設定し、ターゲットを決めるなどして効果的な情報発信を心掛けたそうです。

その基となるのは、外部有識者より「議会だよりの検証を要する」という評価を受け広報のあり方を検証してきたこと、またエビデンスを得るために無作為の市民（13歳以上）3,000人にアンケートを行い、広報アドバイザーを起用しアンケート結果をもとに実行計画を作ったこと、などミッションロードマップ2019を立ち上げたことが目標を実現化する推進力になっていると思います。



議会に対する関心度は、高齢者層は高いものの、若年層に近づくほど低くなり、その層をターゲットにし関心を持ってもらうことはどの地域も課題として抱えています。

その中、大津市は「広聴」を重視し、高校生などの若者との交流や、各種団体との意見交換会を積極的に行い、若年層に対しての関心惹起に向けた動画「クイズで学べる大津市議会」や、議員の「一般質問のひとこと解説動画」など独自に取り組みされました。

更に、見やすい紙面にするよう、コンテンツの一つひとつを審議され、代表質問や一般質問の掲載内容を各ジャンルに分けるなど、わかりやすく伝えるための工夫をされています。質問の詳細は二次元コードに繋げる取り組みをされていた事も含め、現在「議会だより」を審議している本区として、大変参考になり勉強になりました。

大津市の取り組みを更に深め、本区に活かしていきたいと思います。

(日本共産党大田区議団)

滋賀県・大津市議会では2019年度から2022年度までの4年間の任期中に取り組む事項と工程をあらかじめ設定した、「大津市議会ミッションロードマップ2019」を策定し、議会全体で「政策立案」と「議会改革」を推進するため、市民に公表し取り組

んできた議会版実行計画があります。

その中で「広報のあり方検証」を実行テーマの一つに選定し、「まずは現状把握」として13歳以上の市民3,000人を対象にアンケート調査。続いて、「知見を深めて」として広報の基礎知識の取得や広報戦略を立てるため専門家による議員研修会の実施。「エビデンスに基づく指針の作成」としてアンケート結果に基づく課題認識や議会における広報と広聴の意義や役割などを踏まえビジョンと具現化のための計画策定を行ってきました。

この、広報広聴ビジョンやアクションプランに基づいて、「おおつ市議会だより」をリニューアルし、今年度から発行しています。

特に関心を持った取り組みとしては、関心惹起に向けた広報動画作成です。質疑・一般質問を行った議員が、自身の質問に対するコメントを1分以内で紹介するもので、大津市議会 YouTube チャンネルのショート動画に上げ、市議会だよりからQRコードを通して視聴できるようリンクも張られています。議員一人ひとりが自分の発言について自分の言葉で市民に伝えることができるもので参考になりました。

(日本維新の会大田区議団)

市議会だよりの工夫が目を引きました。①文字を減らして図表やイラストを増やす②市民が登場する表紙で手に取りやすくする③文章を簡単にし、こどもと一緒に読める内容に④クイズや漫画を取り入れる⑤議員の顔が見えるコーナーをつくる⑥市民が登場するコーナーをつくる、などは大田区でもすぐに導入検討ができるように感じました。特に高校生との意見交換会は若者に議会に関心を持ってもらうためにとっても大切なイベントであると感じました。大田区も今後は授業の一環として議会を傍聴してもらったり、意見交換会を行ったり、こども議会を開催したりなどの検討を更に深める必要を感じました。

また、今回の視察では可児市議会も大津市議会も当たり前のように議場でスクリーンを活用し、傍聴者や動画視聴者に理解してもらいやすい工夫を行っていました。私が視察したことのあるフィリピン国会や台湾高雄市議会でもスクリーンを用いて議事進行しており、有権者に近い議会を求めるのであれば議場のスクリーン配備は必須と感じました。

更に何をしているのか有権者には分かりづらい常任委員会や特別委員会の動画配信も今後は必須と考える次第です。

最後に今回の視察目的からは外れますが、備え付けの折りたたみ式防災ヘルメットについて、議員氏名、血液型、緊急連絡先がテプラシールで貼られている事は発災時にとても有意義であると感じました。運用の煩雑さや手間を考える必要はありますが、どのような分野であつても見習うべき点はしっかり活かしていきたいと感じた視察となりました。



(つばさ大田区議団)

執行権を持たない議会において住民自治の拡充を目指すには、広報広聴が活動の原点であるといえることから、大津市議会基本条例第 15 条には「広報広聴機能の充実」として、広報広聴活動を通じて得られた市民の声を議会活動に反映していくことを定めている。具体的には、議会の広報広聴は、地域課題や市民ニーズを広聴活動の中での確に集約し、議会活動のプロセスや結果を市民に広報することで、議会への認知、興味や関心、参画意欲を高めるきっかけをつくり、議会と市民をつなぐ役割を担っている。また、市民から負託を受けた議会としての説明責任を果たす観点からも議会における「広報」と「広聴」は住民自治を実現する根幹といえる。

これまでの大津市議会の広報活動は、市議会における議論の結果を報告することに主眼を置いてきたが、議会 広報の本来のあり方は、地域の課題や要望などを広聴活動等により集約・顕在化し、それに基づいた議決や市議会としての政策立案を行うプロセス全体を市民等と共有するためのツールとして活用することが望ましいとの結論に至った。このことから、広報をより効果的に推進していく上において広聴を切り離して考えることはできず、「広報」と「広聴」を一体的に捉えた広報広聴活動としての基本方針や戦略を立て、広報広聴活動全般の方向性を示す指針として、大津市議会広報広聴ビジョンを策定した。



特筆すべきは、議会事務局内に広報係があることだ。また、議員の一般質問をショート動画に編集して配信されているのは驚きだった。

さらに、市議会広報誌には各議員の一言や質問の動画に飛ぶQRコードが印刷されており、とても市議会を身近に感ずることができると思う。

大田区議会は、やっと区議のHPのリンク、メールアドレスの公開を始めたが、実に遅きに失したと感ずる。ちょうど、議会だよりの意匠変更が検討されているようなので、センセーショナルに変えてみたらどうだろうか。

(東京政策フォーラム (都民ファースト・国民民主・無所属の会))

大津市議会では広報広聴ビジョンを作成し、市議会の広報広聴機能の充実に向けた戦略的な方針を構築した。市民や市内の企業や各種団体などをターゲットとして、市議会の認知度やイメージの向上、市議会への興味や関心の惹起を図りながら、様々な形で市民の皆さんなどに市議会に関わってもらえるよう広報広聴活動の充実を図り、市民に開かれた議会の実現を目指すことを目的としている。ビジョンの位置づけとすると、理想像として大津市議会基本条例があり、その実現のためにビジョンが存在する。

大津市議会では平成 29 年度から議会活動の評価制度を導入し、「議会の機能強化」

「政策立案」「情報公開（広報）」「市民参加（広聴）」に対する内部評価を実施しており、平成 30 年度には内部評価に加え、市内在住の有識者からの外部評価を実施した。市議会の外部、内部評価制度の作成は、客観的に市議会の活動がどのように見られているか、何が不足しているかを客観的に見るうえで大切な取り組みである。大田区でも議会の活動の評価機関を設置し、広報広聴の面から何が可能かを検証していきべきである。

（立憲民主党大田区議団）

大津市の人口は約 34 万人、議員定数は 38 名。大津市議会は、平成 27（2015）年 3 月に議会基本条例を制定するなど、議会改革に取り組んできました。その議会基本条例第 15 条で、今回の視察テーマにつながる「広報広聴機能の充実」を定めています。

また、議会基本条例第 5 条の 2 で「議会活動実行計画の策定」を定めており、任期 4 年間の議会版実行計画として策定した「ミッションロードマップ 2019」に盛り込んだ「広報のあり方検証」に基づいて、「広報広聴ビジョン」を策定しました。

策定にあたっては、広報のあり方に関する現状把握のため、令和 3（2021）年 7 月に市民アンケートを実施。次に、広報のあり方検証アドバイザーを起用し、知見を深めての議論。そして、ビジョンを具体化するアクションプランを策定して取り組んでいます。

その一つが、『おおつ市議会だより』のリニューアル。実物もいただきましたが、議会との意見交換会に参加した若者たちの写真を表紙に使ったり、デザインやイラストを工夫して読みやすくしたり、市民が登場するページを設けたりしています。また、広報動画では、質疑・一般質問をした議員による 1 分以内の「ひとこと解説動画」を作成し、市議会だよりからリンクできるようにしています。

このような議会改革の推進役について質問したところ、前議会局長の清水克士氏の役割が大きかったとのこと。清水氏の言葉に「議会局職員は軍師たれ！」というものがあると、説明者の広報広聴係長が教えてくださいました。広報のあり方検証は、市議会の広報広聴委員会を中心に 2 年かけて行ったとのことですが、EBPM（エビデンスに基づく政策立案）的な進め方など、議会の議論を支える議会局の力量を感じました。

現在、大田区議会でも『おおた区議会だより』のリニューアルを検討していますが、ぜひとも区民意見の把握など、エビデンスに基づく検討が望まれるところです。